



BLUE BIRD

学校だより 第10号

令和8年2月2日発行
東京都立青鳥特別支援学校
校長 高橋 馨

未来に向かって ～「まとめ」と「始まり」の季節～

校長 高橋 馨

学校の木の枝を、忙しそうに飛び回るメジロの姿を目にしました。冷たい風の吹く日でしたが、足元で蕾を膨らませる水仙とともに、春の季節の訪れを伝えてくれているようでした。『春』は別れと出会いの季節ともいわれますが、学校では「まとめ」と「始まり」の季節でもあります。一年間の中で学んだことや挑戦したこと、できるようになったことや上手になったことなど、自分自身の成長を実感できるよう「まとめ」をします。そして、新年度の新たな「始まり」に備えていきます。3年生の皆さんは、いよいよ卒業を迎えます。4月からの新しい生活に向けた、青鳥特別支援学校での3年間をまとめる学習になります。友達や先生と一緒に過ごす時間を味わいながら、一日一日を大切に「まとめ」の学習を通して、新たな「始まり」への準備を進めていきましょう。

三軒茶屋校舎で3回目、職能開発科が三学年揃い完成形となる今年度の青鳥祭には、昨年以上に多くの保護者の皆様にご来校いただきました。工夫を凝らした作品展示や作業製品の販売・実演、発表活動等を通して、生徒たち一人一人の努力や成長が、しっかり伝わったことと思います。また、両科の3年生それぞれの発表では「毎日の授業、どれも思い出です」「3年間頑張りました!」「未来なんてわかるわけない、だから面白い」「これからの未来も応援よろしく」「また会いましょう～!」といった言葉が聞かれました。これらのセリフを通じて、不安を乗り越え自分たちの「未来」に向かって力強く進もうとする、卒業に向けた熱い思いも伝わったことと思います。『みんなでつくる 明るく 楽しい 青鳥祭』へのご理解とご協力、誠にありがとうございました。

青鳥祭



1月17日(土)に第69回青鳥祭を開催しました。仮設校舎での開催は3回目となります。今年度はついに、普通科・職能開発科共に3学年揃って青鳥祭を実施することができました。

学習成果発表や作業製品販売、カフェ運営、校内誘導や警備業務などに取り組みました。全生徒が一丸となって青鳥祭へ向き合う姿がとても頼もしく感じました。

限られた施設の中での青鳥祭、今年度の成果と課題を生かし、来年度もお楽しみいただけるよう尽力して参ります。

ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。



八丈分教室より



1月20日、今年度最後のCafeチルチルミチルの営業を行いました。午前は大賀郷中学校の皆さんと、午後八丈高校の皆さんと一緒に、賑やかであたたかな雰囲気の中で、多くのお客様をお迎えすることができました。

今年度の総会計数は約700回、販売総数はドリンクが854杯、シマカラが339個、お菓子が562個でした。どの数値もこれまでを大きく上回るものとなりました。この数値が示しているのは、チルチルミチルが少しずつ地域で知られ、親しまれる存在になってきたこと、そして何よりも、生徒の皆さんの日々の頑張りを、地域の多くの皆さまが温かく応援してくださっているということだと思えます。

これからも、地域に愛される活動を目指して、皆で少しずつ歩んでいきます。今後とも変わらぬ御支援とあたたかい応援をどうぞよろしくお願い申し上げます。